

## 平成 29 年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	教員海外研究支援経費
研究者氏名・所属・職名	富田俊明・釧路校・准教授
研究題目	Arts-Centred Learning（芸術中心教育）に関する研究：カナダの Willow Park School とのコラボレーションによるアートワークショップ開発をとおして
主たる滞在地名及び属する国名	カナダ
滞在期間	2018年3月5日～8日（研究期間は4月1日～3月31日）
研究内容及び成果の概要	
<p>先進的な教育理念・実践で知られるカナダにおいて、特にユニークなのが Arts-Centred Learning（以下 ACL）である。「深く気づく」「曖昧さを生きる」「共感を表現する」といった ACL に特徴的なリュウブリックは、間違いなく芸術専門教育から出たものであるが、それは 21 世紀の動的な社会に全面的に参加しようとする個人にとって必要な能力（問題解決、コラボレーション、コミュニケーション、自信、想像力と創造力）の涵養に特段に有効であると主張されている。ACL は、起源である芸術専門教育を超えて注目される新しい教育観であるが、日本ではまだ十分に知られていない。</p> <p>本研究では、ACL をコンセプトとし、主要教科をも芸術を通して教育する公立中学校 Willow Park School（アルバータ州カルガリー市、カナダ）を具体例として参照しつつ、ACL の源泉となっている Lincoln Center Education（ニューヨーク市、アメリカ合衆国）の提示する Imaginative Learning と 10 capacities（想像的な学びと 10 の人格的能力の容量）を研究した。前期は文献（Emerging the World on the Works of Art, Incoln Center Institute, 2012）の研究、後期は文献研究の成果から実践研究を行った。</p> <p>【教育への還元および成果発表について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者の主宰する絵画・現代アートゼミでは、リンカーンセンター研究所が提案する「想像的学びの 10 の度量」を原典から翻訳を進め研究した他、これを独自に解釈し、リンカーンセンター研究所の提示とは異なる形でグラフィック化した。</li> <li>さらにはゼミ学生とともに学会発表を実施、研究成果を広く日本の芸術教育の世界に公表するとともに、学生のアカデミックな実践力を高める機会とした。</li> </ul>	

- ・ LCI Unit Plan guide（リンカーンセンター研究所が提案する「想像的学び」の授業案作成ガイド）に沿って、試行授業を考案し実施した。
- ・ 「想像的学びの10の度量」のゼミ独自のグラフィック解釈と LCI Unit Plan guide による試行授業の成果をまとめ、Willow Park School を訪問し、交流を行った。この一連の積極的かつダイナミックな研究のやり取りをとおして、ゼミ学生の真に国際的な芸術教育者としての資質を向上させた。
- ・ 以上の成果は、来年度以降、学会発表や学術論文として、広く成果を日本の美術教育の質的向上のために講評していく予定である。

#### 成果の公表の状況

【学会発表】大学美術教育学会 広島大会

演題「曖昧さを生きる：Arts-Centred Learning に見る芸術と教育の新しい関係」

発表者は、富田俊明、梅原恭平（北海道教育大学大学院教育学研究科大学院生）、堀井脩平（北海道教育大学大学院教育学研究科大学院生）

#### 教育現場で活用可能な分野等

美術の教育、21世紀型教育

#### 配布又はダウンロード可能な資料

#### 問合わせ先

代表者：富田俊明  
 電話：0154-44-3347  
 FAX：  
 mail：tomita.toshiaki@k.hokkyodai.ac.jp